

まぶりっと衆・早池峰の会（岩手県遠野市）

1. 活動地域の概要

遠野市は北上高地の東南部に位置し、東西34km、南北40km、面積825平方kmの盆地です。昨年の合併を経て、市域が琵琶湖ほどの広さから佐渡ヶ島ほどの広さに拡大いたしました。周辺には標高1,000m超の山々が点在し、北に早池峰山、東に六角牛山、西に石上山があり、これらをつなぐように比較的なだらかな高原群が広がっております。

その早池峰山の麓に位置している「遠野ふるさと村」は、標高280mから450mの山間部の附馬牛地区にあります。この地区は、冬は-15℃から、夏は34℃まで気温が変化する盆地特有の温度差の大きい地域です。また、476戸の世帯数のうち、77%は専業農家や兼業農家として農業に携わっています。農作物の生産量の1位は水稻、2位は肉用牛、3位は葉たばこになっており、その他にも野菜や果樹栽培などが盛んに行われています。特に、市内で栽培されるホップと山女養殖はともに日本一の生産量を誇っています。

2. 活動開始の背景・経緯

遠野市は人口約32,000人、高齢化率32%となっています。平成8年、南部曲り家を複数棟移築復元した農業体験型観光施設「遠野ふるさと村」のオープンをきっかけに、高齢者の生き甲斐対策、廃れつつある技や行事の伝承を目的として、地元老人クラブ等と協議の上「まぶりっと衆・早池峰の会」が発足いたしました。村内での民芸品の製作実演、観光客への昔話やおもてなし、



遠野ふるさと村全景

各種体験のインストラクターなどの活動を行っております。このような活動の場ができたことによって、高齢者が生き甲斐を持つようになり、また民芸品販売やインストラクターの収入などは地区全体の活性化につながってきています。

3. 構成員紹介

会員は当初30名、現在は23名で、知恵と技を身につけた達人達で構成され、「まぶりっと」と呼ばれています。特技は語り部2人、そば打ち5人、お手玉5人、竹細工5人、木工5人、団子・郷土料理6人、ワラ馬っこ3人、南蛮ワラ編み3人、郷土芸能しし踊り5人、田植え10人です(重複あり)。平成16年には18歳の「まぶりっと」が1人いました。現在は仕事に就いたためいませんが、時々遊びに来てくれます。



まぶりっと衆・早池峰の会

4. 活動内容

(1) まぶりっと業務

「まぶりっと衆・早池峰の会」は、「遠野ふるさと村」を訪れる方に対して、昔ながらのおもてなしを行うため、毎日2人ずつ当番制で、炉端を囲みながらの昔話語りなどを通して、コミュニケーションをとることを主な活動とし、同時に曲り家の維持管理も行っています。朝一番に馬釜に水を入れて薪を焚き、湯を沸かし、曲り家の掃除を行います。それから、生木を焚き、煤が沢山出るようにします。これは茅を保存するためにいぶしをかけ、茅屋根を長持ちさせるため毎日行っています。

(2) イベント参加

市のイベントの協力も兼ねて、山女の塩焼き・田楽団子・手打ちそば・餅等の販売をし、収益は活動資金に充てています。市のイベントの一つに「どべっこ祭り」があります。「どべっこ」とは濁り酒のことを意味し、全国で初めてどぶろく特区を導入した遠野市ならではの祭りです。祭りでは、100年ぶりに甞った味「どぶろく」と地元の造り酒屋の濁り酒を堪能したり、神楽を観ながら郷土料理を味わったりしています。



馬っこつなぎ

(3) 民俗体験行事

その他の活動としては、田んぼの神様に豊作祈願する民俗行事を年3回行っています。その日訪れた方はどなたも参加できるということで、この活動も大変喜ばれています。

(4) 東北ツーリズム大学・グリーンライフ授業

「遠野ふるさと村」は大学のキャンパスになったり、高校生の授業を行ったりもしています。その際は、「まぶりっと」が講師をしています。例えば、田楽団子作りや餅つき、そばうち、農作業としては昔田植え、畑で鋤仕事、大根を収穫し凍み大根作りや、大豆を馬釜で煮て味噌玉つくりと味噌作りといった、ここでしか出来ない昔の農作業を指導しています。

以下は、四季の行祭事再現や主な活動内容です。

- 伝承行事再現(年3回)
春風祭・馬っこつなぎ・雨風祭
- 農作業
(昔田植え・畑作り・花植え・草取り)
- 曲り家の維持管理(いぶし・掃除)
- お客様へお茶の接待
- グリーンライフ授業
(地元高校生に指導)
- 市イベント協力
春祭り・夏祭り
曲り家市・かかし祭り
門松作り・小正月行事
どべっこ祭り
- 研修旅行
- 体験講師
- 後継者育成 等

5. 事業計画

月	行 事 名
4	環境美化・春風祭り
5	花・野菜作り・田植・春物語
6	昔田植え・研修旅行・馬っこつなぎ
7	畑草取り・川掃除・竹トンボ講習会
8	地藏供養ちょうちん飾り・夏物語
9	雨風祭り・かかし祭り
10	庭仕舞
11	けら作り講習会・どべっこ祭り
12	寒干大根作り・門松作り
1	寒干大根作り・どべっこ祭り 小正月行事
2	どべっこ祭り・炭焼講習会
3	どべっこ祭り・ひな祭り わら草履講習会



昔田植え

6. 活動の成果

- 農村の暮らし再現
- 景観の維持管理
- 高齢者の社会参加

- 地域への経済効果
- 生涯学習の推進
- 新農村観光事業の展開

7. 今後の展開

(1) グリーンライフ授業の実施から農業の考え方に変化

地元、県立遠野緑峰高校生は1年に20回「遠野ふるさと村」で授業を受けています。生徒が“まぶりっ”との触れ合いを通して、農業は暗い・つらい仕事であるというイメージから、心の癒しを感じさせる楽しい仕事であるというふうな考え方が変わったと、学校代表として岩手県大会で発表したことから、市民の方々にも農業に対する別の視点を広めることができました。



餅つき

(2) 子供の居場所づくり事業

市内児童館の子供達は、田植えや稲刈りに喜んでくれます。それは、農作業後の昼食に昔ながらの朴ほおの木の葉っぱで包んだおにぎりが食べられるのを楽しみにしているからです。それ以外にも昔風の田植えや稲刈りは、大勢での共同作業が楽しいという理由で現在でも活動が続けられています。家に帰り、その日の出来事を楽しく話す我が子に、農家である家族は「びっくりした」と、あるお母さんから伺いました。自分の家の手伝いはしないのに「なぜ？」と不思議に思ったようです。

(3) 高齢化社会に向けて

昔の農村の姿を守っている早池峰の会は、「生き甲斐」「生涯学習」「ボランティアによる社会貢献」が高齢者に求められていく時代に、そのモデルになる可能性を秘めています。



小正月みず木飾り

(4) 交流から定住へ

「遠野ふるさと村」を訪れる多くの都市住民との交流は、発見、共有、感動を与え続け、遠野の交流事業への貢献度は高いと自負しています。都市と農村との交流から定住する人が多いこの附馬牛地区は将来、田舎暮らしを望む方が、そこに暮らす人々の心の豊かさを感じ、安らぎを覚え、都会と田舎と両方を行ったり来たりして暮す、グリーンツーリズムの定住を進めることに適した場所になることでしょう。

(5) 永遠のふるさと

“まぶりっ”は、漢字で“守りっ人”と書き、伝統・手技を伝承する人のことを意味します。この活動は、これまで地域で培われてきたものを次世代へと引き継いでいく大切な役割を担っています。木にわずかな果実を残すことを“木守り”きまもりというように、遠野の“まぶりっ”は次世代に永遠のふるさとを残すため、この里に生き続けていきます。